

アクトヒブ (乾燥ヘモフィルスb型ワクチン)と  
プレベナー (沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン)について

一般名	<b>乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)</b>	<b>沈降7価肺炎球菌結合型ワクチン (無毒性変異ジフテリア毒素結合体)</b>
起炎となる 主要感染症	細菌性髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、 喉頭蓋炎、肺炎、骨髄炎など	細菌性髄膜炎、中耳炎、副鼻腔炎、 気管支炎、肺炎、敗血症など
	細菌性髄膜炎は、風邪の症状から発展し、発熱、頭痛、項部硬直、さらに意識障害や種々の神経麻痺、痙攣などが出現することがあります。重篤な神経系後遺症を残すこともあります。	
日本での 開発と承認	2008年12月19日付にて、販売が開始されましたが、日本での生産量がまだ少ないために、供給数が限定されています。 (各診療所につき、毎月3例だけの供給)	2010年2月24日に販売が開始されました。
好発・ 適応年齢	2歳未満の乳幼児に最も多く、90%は5歳未満までに起こります。 <b>生後2ヶ月から5歳未満</b> が適応となります。	1歳から10歳の乳幼・小児に多く、流行性のものもあります。 <b>生後2ヶ月から10歳未満</b> が適応となります。
当院での使用 ワクチン	日本政府が承認し、販売しているワクチンと同じものを使用しております。	
	【製品名】 Haemophilus influenzae type b polysaccharide conjugate to tetanus protein 【商品名】 Act HIB 【会社名】 Sanofi Pasteur 【輸入先】 Europe	【製品名】 Pneumococcal saccharide conjugated vaccine, adsorbed 【商品名】 Prevenar 【会社名】 Wyeth 【輸入先】 Europe
接種 スケジュール	接種回数は、初回免疫開始年齢(月齢)によって異なりますが、1-4回です。また、接種スケジュールが遅れている場合や接種もがある方は、医師との診察時に今後のスケジュールを決定してください。	
	【2ヶ月-7ヶ月未満】 ・4-8週間隔で3回接種 ・3回接種約1年後に追加接種 【7ヶ月-12ヶ月未満】 ・4-8週間隔で2回接種 ・2回接種約1年後に追加接種 【1歳-5歳未満】 ・1回のみ接種	【2ヶ月-7ヶ月未満】 ・27日以上の間隔で3回接種 ・12-15ヶ月齢にの間に追加接種 (3回目から60日の間隔必要) 【7ヶ月-12ヶ月未満】 ・27日以上の間隔で2回接種 ・2回目の接種後60日以上の間隔で12ヶ月齢後に追加接種 【1歳-2歳未満】 ・60日以上の間隔で2回接種 【2歳-9歳未満】 ・1回のみ接種

副反応	<p>局所症状として、接種部の発赤(紅斑)、腫脹・腫瘤・硬化(硬結)、疼痛(圧痛)などが一番多くみられます。</p> <p>また全身症状としては、発熱(39度以下でその殆どが37.5 程度)、易刺激性(不機嫌)、落ち着かない、傾眠や不眠、異常号泣、食欲不振、嘔吐、下痢や便秘などがみられます。いずれにおいても接種後約48時間後までに出現し、その殆どが処置を必要とすることもなく自然に消失します。</p> <p>プレブナーの副反応の方がヒブの副反応より、消失に時間がかかる傾向があります。</p> <p>*1%以下の確率で生じる可能性のあるその他の副反応については、診察時に直接医師にお伺いください。</p>	
他の予防接種との間隔	<p>【生ワクチン接種後】 BCG、経口ポリオ、MRワクチン(麻疹、風疹)、おたふく、水ぼうそうなどの生ワクチンの予防接種後は、4週間が経過していれば接種は可能です。</p> <p>【不活化ワクチン接種後】 三種混合(DPT)、インフルエンザ、日本脳炎などの不活化ワクチンの予防接種後は1週間が経過していれば接種可能です。</p> <p>【ヒブやプレベナー接種後】 これらは不活化ワクチンですので、接種後1週間が経過していれば、いずれのワクチン(生でも不活化でも)接種は可能です。</p>	
病気後の接種間隔	<p>手足口病、伝染性紅斑、突発性発疹、風邪などのウイルス性疾患に罹った後には回復すれば接種が可能です。しかし、回復後の安定をみる為に、治癒後1-2週間の接種が目安となります。また、麻疹の罹患後では約4週間、風疹・おたふく・水ぼうそうなどの場合は罹患後約2-3週間の程度の間隔を空けて接種することが望ましいです。</p>	
値段	¥8,400(1回税込みワクチン自体)	¥12,600(1回税込みワクチン自体)
	<p>* 上記のワクチン自体の値段に加え、医師の診察料がかかります。</p> <p>注射のみの場合に限り技術料として、1本¥3,150(ヒブの場合は1本¥2,100)、2本¥4,725、3本以上¥6,300が加算されます。</p> <p>それ以外に、その他の注射に関する詳細な説明や別件での診察に関しては、診察料が別に加算されることがあります(診察料の上限は約¥12,600です)。</p> <p>* これらの予防接種は任接種であり、また当クリニックは自由診療であるため、健康保険の適応はありません(日本全国どここのクリニック・病院でも予防接種に関して、保険は適応されません)。</p> <p>よって、全額自己負担となりますので、予めご了承ください。(金額表示は、全て税込みです)</p>	
予約について	<p>【予防接種時間】 平日 午前9:00 - 午後5:00 土曜日 午前9:00 - 正午12:00</p> <p>【医師との診察】 当日、お子様の状態を医師が診察し(胸部聴診・鼓膜チェック・検温など)、把握した上で、スケジュールを決定します。 また、その医師がその場で(診察個室)直接接種いたします。 日本人医師を含め、日本語を話す医師は数名在中しております。</p> <p>【完全予約制】 事前に電話で医師との予約をお取りください。 &lt;番号&gt; 03-3436-3028 &lt;時間&gt; 平日 午前8:30 - 午後5:30 土曜日 午前8:30 - 正午12:00</p>	

## プレベナー 13 (沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン)について

[プレベナー13]は、[プレベナー7]の後継ワクチンで、[プレベナー7]に含まれる7種類の血清型にさらに6種類を加えた13種類の血清型に対する予防効果を備えています。

上述したとおり、肺炎球菌(*Streptococcus pneumoniae*)は、血液や中耳に感染し、小児における中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎、肺炎、敗血症及び細菌性髄膜炎などの原因になっています。

2007年には5歳未満の乳幼児では、[プレベナー7]による予防接種の普及で侵襲性肺炎球菌感染症(細菌性髄膜炎、敗血症など、IPD: Invasive Pneumonia Disease以下"IPD"とする)の発現率が99%低下しました。しかし、それ以降にみられたIPDのうち、62%は[プレベナー13]で追加された6種類の血清型が原因であったため、それらをカバーすべく開発されたのが[プレベナー13]です 注1。

[プレベナー13]には、[プレベナー7](4、6B、9V、14、18C、19F、そして23F)に1、3、5、6A、7Fそして19Aの血清型が追加されています。

この中でも特に「19A」は、IPDを引き起こす主要な血清型とされており 注2、現在アメリカでは[プレベナー13]が主流となっております。

アメリカ政府は[プレベナー7]の在庫を[プレベナー13]へ変更するよう各医療機関へ指導しており、また、[プレベナー7]で予防接種のシリーズを開始した乳幼児には[プレベナー13]への接種の切り替えを推奨しております 注3。

日本においても、その必要性を感じ、2009年12月15日付けで承認申請をしておりますが 注4、それには至っておらず、販売にはまだ時間がかかりそうな状態です。

お子様に[プレベナー13]の接種をお考えの方は、診察時にその旨をお申し出くだされば、[プレベナー7]に替わって接種していただくことも可能です。

お値段の方も、注射自体18,900円と比較的低価格で提供させて頂いております。

注1 「乳幼児用の13価肺炎球菌ワクチンを承認」、『Medical Tribune』、2010年、東京

注2 "Impact of universal infant immunization with pneumococcal (*Streptococcus pneumoniae*) conjugate vaccines in the United States"  
2010 Up To Date、2010年5月26日

注3 "Summary of Recommendations for Childhood and Adolescent Immunization"  
<http://www.immunize.org/>

注4 「承認情報:プレベナー-水性懸濁皮下注」、2010年2月19日